

開催日：2009年3月9日（月）

時間：14:00～17:00

場所：同志社大学新町キャンパス 臨光館R208教室

2008年7月に世界遺産に登録されたプレアビヒア寺院は、12世紀のアンコールワットより長い歴史を持つ。

カンボジア北部の山岳地帯に、ヒンズー教寺院として9世紀半ばに建立されたこの寺院は、その地形ゆえ、また、ポルポト軍の戦闘拠点であったこともあり、長期間放置され、随所で崩落の危機に瀕している。

プレアビヒア地区開発統括責任者であるウック・ソメット氏に、まずプレアビヒア寺院の紹介とともに今後の展望について、基調講演をしていただく。次に、プレアビヒア寺院の保全と同じくらい大切な、寺院周辺の森林・自然保護および地域の住民サポートという「環境ならびに農村支援」計画の準備に携わってきた方々に、パネル討論の形でカンボジア情勢一般、遺跡関連事業、NGOおよび日本の関わり方等、率直な意見を述べてもらう。

<プログラム>

14:00～15:00 講演会

「世界遺産プレアビヒア寺院を語る」—学生による写真展とともに—

H.E. UK Someth (ウック・ソメット氏)

(カンボジア王国副首相特別補佐官、プレアビヒア地区開発統括責任者)

15:00～15:15 休憩

15:15～16:15 パネル討論

「カンボジアの経済発展には何が必要か？日本の役割を問う」

パネリスト

森田徳忠氏（カンボジア政府経済最高委員会顧問）

遠藤一弥氏（共同通信横浜支局長、元アジア総局長）

加藤節夫氏（プレアビヒアの会事務局長）

司会

阿部茂行 教授（同志社大学政策学部教授・現代アジア研究センター長）

16:15～17:00 質疑応答